

キューバ 貿易統計、外交文書の調査体験記 (特集 続・地域関連コレクション -- 中東・アフリカ・ラ テンアメリカ)

著者	田中 高
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	186
ページ	25-26
発行年	2011-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004290

キューバ 貿易統計、 外交文書の調査体験記

ラテン
アメリカ

田中
高

●貿易統計

キューバにおける貿易統計と外交文書の資料調査について、個人的な体験に基づく情報についてご紹介したい。筆者は二〇一〇年八月から翌年一月まで、ハバナ大学

キューバ経済研究所 (Universidad de la Habana, Centro de Estudios de la Economía Cubana : CEEC) の客員研究員として過ごした。ちょうどアジア経済研究所の研究プロジェクト「キューバ総合研究」(山岡加奈子主査)との関係もあり、比較的容易に学術ビザを入手することができたのは、幸運であった。

この間一九五〇年代から一九九〇年代にかけての、キューバの貿易統計資料と、キューバ外務省の外交文書、特にキューバと日本の貿易に関する文書を調査した。前者については、外国貿易投資省

(Ministerio de Comercio Exterior y la Inversión Extranjera : MINCEX) において、一九五〇年から一九九三年までの、*Comercio Exterior de Cuba* の各年版の閲覧が可能である。

MINCEXでは、外来の訪問者は必ず一階の受付で用務先を告げなくてはならない。担当者が迎えに来るまでは、内部に入つてはいけないことになっている。一九五九年の革命でキューバの政府組織は一挙に再編されたが、革命前後の貿易統計の変化を比べるだけでも、大変興味深い。革命前後の一九五八年版は、Ministerio de Hacienda Dirección General de Estadísticas (財務省 統計局) の発行であるが、五九年には Junta Central de Planificación (中央計画委員会) にかわった。五九年版には、関税分類が各国別に

きなり出てきて、そつけないものになったが、その後は何度か装丁も変化して、現在の体裁に落ち着いたようだ。

さらに興味深いのは、一九九一年のソ連崩壊後のキューバ貿易の激変である。一九九二年の冊子は、わら半紙のような紙質で、ページ数も半分で、当時の苦しい経済状況を肌で感じるができる。対ソ連貿易の大幅な縮小が数字の上でも鮮明に表れている。九二年版では前年比で輸出が三九%、輸入が四六%減少した、と淡々とした調子で説明されている。キューバの海外援助の受取りと支出の記述もある。なお貿易統計は一九八三年から「秘密」扱いになっているが、一九九三年分までは、公開されている。

筆者は日本とキューバの貿易に関心があり、七〇年代から八〇年代の両国間の交易について、資料を閲覧することができた。例えば一九八八年版によると、キューバの貿易相手国のうち、社会主義諸国を除くと、日本向けの輸出は総輸出額の二%を占めていて、トップの座を占めていたスペインを抜いて一位である。

昨今は貿易のデータベースも充実して、国連の貿易統計などで容易に利用することが可能になった。しかしデータの持つ奥深いメッセージを「肌で感じる」には、やはり現地赶赴して、一次資料にあたるのが肝要だと、改めて感じた。特にキューバは社会主義体制の国で、数量化されたデータ以外にも、たとえば、貿易統計の各年版の解説部分に、貿易の実態をつかむヒントが隠されていることもある。近年はベネズエラとの二国間協定で、公表されていない財(ベネズエラ産原油)とサービス(キューバの医療技術者)の取引があるため、政府発表のデータだけで実際の貿易状況を判断するのは困難である。

●外交文書

キューバの外交文書で、公開されたものは、国立公文書館(Archivo

Nacional (以下公文書館)で閲覧することができる。右に該当するものが、一九五九年一月二三日から一九七五年までの文書で、内容の一覧は、Fondo No. 301, Ministerio de Relaciones Exteriores, 23 de diciembre 1959 hasta el presente, Inventario No.1, 1959-1975という冊子に記載されている。公文書館には植民地時代からの各種文書が保存されてあるが、キューバ人が日常生活を送るうえでも欠かせない存在である。というのも、不動産登記や移住者の入国時のデータが保存されているからである。最近スペインの国籍法が改正され、孫の代にもスペイン国籍を付与することになった。知人は公文書館で、祖父が移民として入国した際の乗船者名簿の写しを入手し、これを基に、スペイン大使館に国籍申請している。

日本とキューバの外交文書で運よく見つけたのは、次の二点である。ひとつは、Memorandum Estrictamente Confidencial referente las conclusiones de la reunión celebrada en el Palacio Presidencial el día 18 de marzo de 1960 en relaciones con las negociaciones entre el gobierno de

Cuba y el gobierno de Japón, (「極秘覚書 一九六〇年三月一八日、大統領官邸でキューバ政府と日本との交渉の機会に関する結論」という文書である。ざっと見たところでは、内容は両国間の通商条約の締結をめぐる駆け引きのようである。関税率や最恵国待遇の適用についてやり取りがあった。

日本とキューバとの通商条約は一九六一年三月に発効したが、締結に至るまでの経緯については、Ministerio de Relaciones Exteriores, División de Convenio y Tratados, Título Expediente relativo a negociaciones para un convenio comercial con Japón,という文書の綴り(合計三三〇ページ)がある。これはハバナの本省と東京にあるキューバ大使館とで交わされた記録である。キューバ側は熱心に砂糖輸出を働きかけ、日本はキューバへの繊維製品の輸出をもくろんでいた。どうも「裏取引」のような形で、双方の目標値(砂糖と繊維製品)があったようで、要するに実態はパートナー取引でなかったかと推察される。日本にある外交史料館の記録も参照しながら、当時の両国間の交渉の舞台裏を解明したい。

外務省の資料には、上記二点のほかに、第二次世界大戦開戦時にキューバ在住の日系人が、キューバ外務大臣あてに送付した嘆願書のようなものが一通くらいあった。おそらくこれ以外にも、当時の記録が残っているものと推察されるが、公開されていないのか、あるいは別の場所に保管されている可能性もある。アメリカとの外交関係の文書も、ざっと見たところほとんどない。「極秘」扱いの文書も、上述の日本との通商交渉ぐらいしか見当たらない。革命後のキューバの外交政策については、外務省の記録よりも、むしろ共産党政治局のほうが影響力を持っていた可能性もあるが、政治局の文書は公文書館には保蔵されていない。

以上キューバの貿易統計と外交文書について、個人的な体験をもとに紹介した。なお、こうした資料を利用するには、原則として学術ビザもしくは、当地の教育機関に所属して、学生の身分証明書を取得する必要がある。特に国立公文書館の場合は、キューバ側のしるべき機関の紹介状と、身分証明書のコピーが必要で、許可を得るまでに最短で三日間を要する。

いずれの機関も担当職員は勤続二〇年以上のベテランで、とても親切に対応してくれた。

紙のコピーについてはMINCEXも公文書館も不可能である。しかし前者はデジタルカメラを利用することができる(無料)。後者は、スキャナーで撮影依頼したものを、持参するUSBにコピーする(一枚〇・六CUC。約六〇円弱)。

(たなか たかし／中部大学教授)

●MINCEX <http://www.cepec.cu/>

●Archivo Nacional <http://www.arnac.cu/>



国立公文書館のプレート。(キューバ島総合公文書館1840年設立、と記載されてある) 筆者撮影。